説明コメント概要と質疑応答

中央小学校の校長先生コメント概要

- ○ 環境養育としては、中庭を活かすこと事を考えており、事務局等の協力をえながら中庭を整備することとしている。
- ○ エコ改修のメニューとしては、太陽熱利用の床暖房、ペアガラス化、内断熱がメインとなっている。
- ○ エコ改修後に施設を利用するのは、児童、教職員になるので容易に使える設備を考えることが大切だと思う。エコフロー事業での改修は、モデル校であって実験校ではないので、学校としては、実際の使用を十分に考え、児童、教職員が使いやすいものであることが必要だと思う。
- ○ 改修にあたっては、いろいろな制約があるので、できたところ、できなかったところが出てくる。設計や工事が余裕を持ってできるように考えておく必要があると思う。

中村勉総合設計事務所の設計担当者のコメント概要

- ○ エコ改修のポイントは、省エネ・省ＣＯ２、教育空間の充実、建物の長寿命化の 3 つである。省エネ・省ＣＯ２のための基本性能の向上として、断熱、通風、日射遮蔽、採光を行い、その上で太陽集熱という自然のエネルギーを利用するように考えている。
- ○ コストの関係で、サッシ自体は代えていないが、既存のサッシを活用してペアガラスをいれている。また、教室のオープン化を図り、通風と両面採光を確保するようにした。
- ○ 環境教育に対しては、中庭が大事だと考えた。理科室から出て、中庭で実験や観察をして、図書室で調べ学習する。そのような一体的な利用を考えて理科室、中庭、図書室という一体的な空間を作った。そのために、既存の昇降口を壊して学校の中心となる「エコエッグ棟」をつくった。
- ○ エコエッグ棟にある図書室は、昇降口からよく見えるので児童がお迎えを図書室で待てるようにしている。
- ○ 設計段階では、設計検討会を開催してできるだけ多くの教職員の方に参加いただき、いろいろとご意見をもらった。全体の配置もこの検討会の中で決まった。
- ○ 検討する上での重み付けとしては、①子供が日常的にいる場所（普通教室）、②図書室、理科室、③音楽室、④職員室の順で考え、普通教室部分の改善を重視した。また、事業のエコ改修や環境教育に資することはできるだけ採用した。修繕的なことは優先順位を落とした。
- ○ 設備の面や外壁補修の部分では、既存の状態では把握し切れていなかった部分も多く、現場でやり繰りしながらやった。また、既存の備品についても、外すもの（廃棄）、そのまま利用する、外して再度付けるものなどを整理していたが、外す予定のものがうまく解体できないなど苦労した。

太田市教育委員会担当者のコメント概要

○　エコ改修で期待していたことは、以下のような事である。

①　この事業を行うことで、地域の方や保護者への波及が大きいこと。

②　大規模な修繕を実施することができる。

③　エコ改修研究会で勉強した設計者が、プロポーザルに参加することとなるので、エコ改修の知識を十分にもった設計者によるプロポーザル提案と設計が可能なこと。

○　上記の期待していたことに対して実際はどうだったか。

①　地域への波及ついては、これからの取組によると考える。

②　耐震改修はできたが、コストや工期の面で限界があり、北校舎の１階など修繕的な部分が残っている。

③　できることに限界はあるが、勉強した設計者が選ばれる方式は良かったと思う。

○　環境教育について

・　太田市の学校ではＩＳ014001 を取得している。また、中央小学校では一人一鉢の取組みがあり環境教育の下地はある。

・　学校のカリキュラムと環境教育をリンクするために学年別相談会等を実践してきた。

・　子供が分かりやすいもの、単純なものを取り入れることが大事だと思う。太田市では、太陽光発電を積極的に推進しているが、太陽光発電では、発電された電気がどのように使われているかを示すことはむずかしい。中央小学校では、子供達が体感して分かり易いように、太陽熱集熱パネルでの床暖房を取り入れ、太陽の熱がどのように利用されたかを体感できるようにした。

・　これからは、「学校探検」等を通じで、エコ改修内容を子供達に学習してもらうプログラムを考えている。また、教職員も入れ替わりが早いので、設置した機器をうまく使ってもらえるように「取扱説明書」の様なものをつくって適切に利用されるようにしたい。

・　ソフト的な取組については、中庭で事務局企業などボランティア等を活用しながら展開していきたい。

【校内見学の後の質疑応答】

	発言内容
質問	改修されたゾーンに入れていないクラスもあるようだがどうしてなのか。そのような改修計画で異論はなかったのか。
回答	今年度から、１・２年生は 30 人学級、３・４年生は 35 人学級、５・６年生は 40 人学級とシステムが変わってしまった。設計段階では、全てのクラスがエコ改修された教室になる予定だったが、工事中にシステムが変わり、クラス数が増えてしまった。
質問	改修後の夏場はこれからだが、改修前の夏場は暑かったのか。
回答	特に３階は暑かった。エコ改修で改善されていると思うので、ナイトパージなど使い方のマニュアル化を進めると共に、学校探検などを通して、子供達にも使い方を分かってもらうようにしていきたい。
質問	参考事例とされた横浜市の港北小学校では、メディアセンターを設けているが、エコエッグ棟のところでパソコン教室もいれて、ＰＣを使った環境学習スペースの確保などは考えなかったのか。
回答	考えてはいたが、スペースの問題で実現できなかった。
質問	外壁の黄緑がかった黄色の色はどのように決めたのか。
回答	設計者から設計検討委員会に提案して、そこで決めた。以前の校舎が、くらい色の校舎だったので明るい色調にした。
質問	内装で用いている木材は、国産材なのか。
回答	普通教室の所にある家具類は県産材を使っている。
質問	プロポーザルの段階では風のモールがあったようだが実現しなかったのか。
回答	コスト的な制約もあり、断念した。
質問	エコエッグ棟は、西向きになっているので、夏場の西日が厳しく、暑くなりそうだが何か対応は考えているのか。
回答	エコエッグ棟の外側にグリーンカーテンができるように可動式のネットを設置しており、夏場はこのネットの植物で日射遮蔽をするように考えている。可動式のネットとしたのは、ネットに育つ植物は一年草なので枯れたときの対応のために、ネットがおろせるようにするためである。
質問	中庭を環境教育の場として大事にしているとのことだが、現状ではまだ植採等がなされていない。当初からそのような予定だったのか。また、ボランティアなどで整備をしていくということだが、地域の人を活用していくことは当初から考えていたのか。
回答	中庭の整備もプロポーザルの段階では提案していたが、予算の関係でけずられた。しかし、中庭を周辺の住民を学校に入れるための道具として使っていきたいと考えている。中庭の整備については、事務局や学校、市役所が主体となる部分もあるが、以前から学校園芸ボランティアという組織があるので、協力していきたいと考えている。